

everyone's voice

みんなの 声

投稿テーマ **新生活、〇〇に助けられました。**

大学新生活、サークルの先輩に助けられました。華の東京生活のはずが、極度の恥ずかしがり屋で引き籠り、食欲もわずかに過ぎていました。そんなある日、新歓コンパのサークル勧誘で声をかけられ、最近の生活を話すと「俺達に任せろ!」と、毎日夕飯をご馳走してくれました。その後、先輩たちに楽しい大学生活をスタート出来たお礼をしようとしたが、「自分の後輩に同じようにしてやれ、それが恩返しだ」と断わられました。今はサークルの後輩を助けることはできませんが、これからも、長岡の地でいい大人として若い人たちを助けられるようにしていきたいです。 投稿者 三島地域むすび隊 大島健さん

「生まれてこの方長岡!!」の私にとっては新生活ってピンときません。逆に新生活する人を迎え入れる立場だったかな。花火に連れて行ったり生姜醤油ラーメンを食べさせたり。1ターン就職する人、長岡を離れても遊びに来てくれる人を見ているとなんちゃって観光大使になった気分です。 投稿者 ポロンさん

一人暮らしで初めて風邪を引いたとき、心細かったけど大学の友達が看病に来てくれました。その友達とは今では結婚式にも出席して出産祝いを贈りあう家族ぐるみの関係です☆ 投稿者 桜さん

県外の大学に進学したとき、アパートの大家さんの計らいで食事会が行われ、それをきっかけに「あそこの〇〇が美味しいよ」「買い物はあそこのスーパーが安いよ」など教えてもらい、助かったのを覚えています。 投稿者 ギラメンくんさん

寄せられた投稿は
つなラジで
読まれるかも!

投稿募集

5月の投稿テーマ **〇〇に出会えるおでかけスポット。** [募集期間] 4/21~5/20

投稿方法 投稿フォームを使う QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。

協働センター窓口で投稿する 協働センター窓口には設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

つなラジ 週替わりで市民活動団体を紹介するFMながおかのラジオ番組。
■放送局: FMながおか (80.7MHz)
■放送日: 毎週月曜日17時頃~(10分間) ※第5月曜日を除く

column 市民活動・虎の巻

協賛金集めは、つながり作り
キャンドルナイト@与板実行委員会 高橋寿明



毎年6月に行うキャンドルナイト@与板実行委員会ではイベント運営のため、協賛を依頼しています。「協賛依頼文」とイベントの趣旨が分かる「企画書」を添えて地元の企業を中心に実行委員会のクルーと繋がりのある企業に訪問。協賛いただいた企業にはお礼にポスターやフライヤー、SNS、イベント会場の看板などで協賛企業名のお披露目をしています。おさえないポイントは【趣旨に賛同してもらい、無理強いをしないで願います】こと。また、イベントで購入するものは出来るだけ協賛企業を利用するなどの配慮も大切です。協賛金集めは大変ですが、責任感とモチベーションが得られますし、地元との繋がりが深まることに意義を感じています。



※この記事はWEBサイト「コライト」からの抜粋です。

information センターからのお知らせ

平成29年度
市民活動推進事業補助金

資金応援!

市民活動団体などが実施する公益性のある活動や、イベントにかかる経費の一部を補助する「長岡市市民活動推進事業補助金」。ただいま申請受付中です。随時、企画や申請内容のご相談に対応いたします。やってみよう企画をお持ちの方は、構想段階でも大丈夫です!まずはながおか市民協働センターへご相談ください。



4月2日に開催された「アオーレde舞おーれ」



4月16日に開催された「よってげえふれあい市」

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

らこら

Racotte
vol.53

発行 ● ながおか市民協働センター

2017
5
FREE

交流の場をつくるコーディネーター
小林公司さん



interview インタビュー



学生と地域をつなぐ「外交官」
堀 志織さん

●団体PickUp!

「障害を包みこむ居場所づくり」
特定非営利活動法人春よこい

「みんなでつなぐ『ふるさと』」
竹之高地同友会

「多世代が心安らげる場を目指して」
ゆるりま

「ゆるさがポイント!食卓をみんなで
共有する『シェア』コミュニティ」
シェア飯長岡

●長岡企業のソーシャルアクション!

「散髪の喜びをどんな子にも届ける」
長岡理容組合青年部/散髪ボランティア

●みんなの声

投稿テーマ「新生活、〇〇に助けられました。」

コライト、見ないと!

コライト

検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらからのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこら

2017.5.1
(vol.53)

FREE

【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail. kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



FMながおか
80.7MHz

毎週月曜日17時頃から放送中!
つながるラジオ

ながおかの市民活動紹介番組 放送時間 10分程度 第5月曜日を除く

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。



小林公司さん〈67歳／自営業〉榎の森倶楽部

50年、100年後のふるさとのためにできるコトを、 みんなで、楽しみながら

小林さんは生まれ育った長岡市和島地域で、熊野神社の敷地を借り受け、多世代交流の場をつくる地域団体「榎の森倶楽部」を平成29年1月に設立しました。そんな小林さんは、以前は地域のために自ら汗水流すということは少なく、地域活動に積極的となったのはここ数年のことだそうです。

価値観が変わる契機となったのは、平成23年の東日本大震災。自身の「生き方」について考え直していた折、旅先の福島県で樹齢1000年を超す名木「三春の滝桜」に出会い、その美しさを守り継いできた先人の営みに心を打たれました。以来、「私は未来を創る子や孫に何を遺せるのだろうか」と考え、生まれ育った地域で、滝桜の植栽活動や、熊野神社の草刈・剪定活動を始めました。

活動する中で特に大切にしていることは、なるべく多くの人を巻き込むこと。「異なる経

験や考えを持つ人と交流すると、多くの発見や学びを得られる。広くて深い交流が交わされる地域には、おのずと笑顔や活力があふれるはず」と、小林さん。地域づくりでは新しい視点をもたらすという意味で「よそ者」「若者」「馬鹿者」のチカラが大切と言われますが、生まれ持った社交的な性格を活かして様々な人から協力してもらっています。

個人の活動の延長で設立した「榎の森倶楽部」には、現在30人以上が会員として参加しています。幼稚園児から高齢者まで、多世代が集まれるような場にしたいという想いが共感を集め、地域外からも手伝いに来る人も増えてきたそう。ふるさと和島が何十年、何百年後も元気であり続けることを願って、いつも率先して野良仕事に励む小林さんの姿に、「自ら楽しむ」ことが何よりも人を巻き込む秘訣なのだと気付かされます。



●上：平成29年春には熊野神社でミニSLを走らせ、幼稚園児を楽しませました。先頭はミニSLを自分で組み立てた佐藤さん ●左下：「三春の滝桜」の前で撮影。この日の経験が今につながっています ●右下：左は小林さんが「榎の森倶楽部」の後継者として期待を寄せる小林克也さん。若手の育成にも積極的です



堀 志織さん〈20歳／大学生〉長岡造形大学プロダクトデザイン学科／つくってあそぼーイズ&ガールズ

みんなでつくりあげる表現の面白さを追い求めて 自分を成長させる地域活動

堀さんは長岡造形大学プロダクトデザイン学科の3年生。学校の課題に追われる日々を過ごす傍ら、デザイン・アートの技術を活かして積極的に地域活動に取り組んでいます。これまでに、アオーレ長岡や、子育て支援施設などを会場に、子ども達向けにアートワークショップを開催。また、イベント会場の装飾や、手作りアクセサリー販売のブース出展、企業や他大学との製品開発など、1年生の時から周囲の友達を巻き込みながらさまざまな活動に関わってきました。

きっかけは、長野県上田市で過ごした高校の美術部での経験。「美術部は自分の作品をつくる活動が普通です。ただ、私の高校は変わっていて、ショッピングモールでのワークショップや、商店街でアート作品をつくったり。地域に出かけて、みんなで一緒に立体的な作品をつくる機会が多かったんで

す」。3歳の頃から祖父の影響で絵を描いてきた堀さん。人と関わりながら作品をつくるのは、新たな楽しさとの出会いでした。

長岡に来てからも、自然と地域のプロジェクトに足が向いたそうです。堀さんのポジションは、地域と学生をつなぐ「外交役」とのこと。「地域の人たちや先生、先輩から声をかけてもらうことが多いんです。そうすると私も友達に声を掛けて、みんなを巻き込んでいます」。活動の動機は「つくることが好き」という想い。地域での活動は、学校の学びを実践する場でもあり、将来にもしっかりとつながっています。「地域から期待されることも多く緊張感がありますが、おかげで成長できます。一人ではなくみんなとの連携が不可欠なことも地域プロジェクトの面白さ」と話す堀さん。これからもデザインの力を活かして地域に関わり続けていきます。



●上：高校時代の美術部での一コマ。現在でも地域活動は、やってみたいこの実践や、息抜き場として大切な時間です ●左下：社会人と学生が所属する「つくってあそぼーイズ&ガールズ」主催のハンドペイントワークショップ。参加する子ども達からも好評 ●右下：今年の春休みには、雪国の食文化や歴史堪能プロジェクト「スノーフルコース」の会場演出に小国和紙を使用して実施

profile

- 1950年 新潟県和島村(現 長岡市)に生まれる。
- 1968年 地元の高校卒業後は建設機械会社に入社し、営業などを担当。休日は趣味の車・バイクに没頭する。仕事や趣味で染いた幅広い人間関係が市民活動でも活かされているのだとか。
- 2011年 東日本大震災を契機に地域活動を始める。
- 2017年 「榎の森倶楽部」を設立。休耕地を利用した農業体験などにより、地域内外の多世代が交流する機会を創出する。

活動の根っこ



profile

- 1996年 長野県上田市に生まれる。
- 1999年 祖父の描く水墨画をきっかけに絵が好きになる。
- 2012年 高校で絵画制作を目的に、美術部へ入部。予想外に地域活動重視で周囲と協力して作品制作に励む日々を過ごし、表現の新たな楽しさと出会う転機となる。
- 2015年 デザイナーを目指し、長岡造形大学プロダクトデザイン学科へ入学。程よい田舎感と洗練された環境が良いと学業に励んでいる。

活動の根っこ



団体PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

特定非営利活動法人春よこい

障害を包みこむ居場所づくり



川口地域で、障害のある子どもや大人の居場所づくりをしています。最も利用の多い小学生には、午後6時まで放課後学童保育を行っているほか、未就学児向けには親子で過ごせる場として子育ての相談にも乗っています。また、中高生には放課後や長期休暇中の交流の場として利用されています。大変なこともあります、子どもたちの笑顔に触れると気持ちも新たに頑張ることがができます。

竹之高地同友会

みんなであつなぐ「ふるさと」



昔から「お不動さま」と呼ばれ親しまれてきた不動社がある竹之高地地区。平成16年中越大震災以降、住民は2世帯となりましたが、お不動さまの管理や畑作業をする元住民、この地に魅了され田んぼを始めた地域外の人たちが定期的に通っています。そんな竹之高地好き35人で結成したのが「竹之高地同友会」。そばを栽培し、毎年11月に150名以上が訪れるそば祭りを開催。様々な人が集いふるさとを守っています。

シェア飯長岡

ゆるさがポイント!食卓をみんなで共有する「シェア」コミュニティ



毎月13日に1人1品持ち寄ることで誰でも無料で参加できるごはん会。食卓を囲み、肩肘張らずに交流しようと、平成28年3月から開催しています。「お金をかけずに楽しいことを!」主催者のシンプルな想いで続く交流の場には、30名以上が参加。20〜30代の若者が多く、なかには宿題を見てもらう子どもの姿も。企業スポンサーを募り、惣菜などを提供してもらっています。あなたも多様な豊かな食卓に参加しませんか。

ゆるりま

多世代が心安らげる場を目指して



大人も子どもも「ゆるり」とリラックスでき、自然体で交流しながら心が満たされる事を目指して運営しています。子育て時期に他人とゆるやかにつながりを築ける場の必要性を感じたことから、活動を始めました。参加者からは「のんびりできる居場所ができた」と喜びの声を頂いています。青少年文化センターで月に1回程度開催していますので、どなたでもお気軽にお越しください。

長岡企業のソーシャルアクション!

地域活動を支える企業をご紹介します

長岡理容組合青年部／散髪ボランティア

散髪の喜びをどんな子にも届ける

双葉寮(児童養護施設)での定期的な散髪ボランティアを平成21年から続けています。50年前から双葉寮で散髪ボランティアをしている「双葉奉仕会」から私たちに協力依頼があったことをきっかけに、有志が集まって活動を始めました。仕事の技術を活かして社会貢献できることにやりがいを感じています。今後は活動の場をもっと広げていきたいと思います。

